

宮川舎漫筆

壹

117

庫	文	門	内
二	二	和	第
三	五	書	...
七	一	...	共
架	二	類	
冊	四		

	和	書	門
	二	一	二
	五	九	四
	一	七	...
冊	架	函	號
五	一	七	...

内閣文庫	
番號	和 25124
冊數	5 ( 1 )
函號	213 117

213-117



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



宮川舎政運著  
德齋原義神訂  
柳川重信画圖

# 宮川舎漫筆

前編  
五卷

江都三笠堂藏梓

文久二壬戌年  
新刻

致



宮川舎漫筆序

運子志味理高

先生次子

子と云ふ先生の気質はけはれ  
了生文はめい山小走花

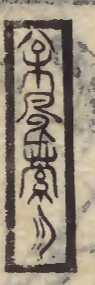


と海ふりて人平  
子序せよと乞ふ  
侍に辭さく  
拙ふすの意  
冊字の如く  
題書する志  
架

尚叔子  
印端



官序



平の性  
癡紙を  
書ふ  
其為  
けき  
見  
一  
行  
波  
留



分是ハハミキヒヤウ川舎紙

心平あふん 心と爾云

安受お午年仲夏者辰

源政運誌



宮川舎漫筆總目錄

卷之一

義士大石瀨丸忠子孫

文和年古書

非人の詩歌

孝子安女

花因の辞せ

叢句の徳

赤染御門の古墳

呪

角兵衛獅子

繁花の衰微の基

古代の奢

一村小羽織一ツ

目賀田氏差物

五人男

半七三勝相對死

卷之二

系圖の奇驗

賤者の歌

八歳の娘子が生

千歳の値遇

刀の徳

辻君の歌

元政小傳并真蹟

富士行者傳

千代尼小傳并真蹟

于塊一死骸

卷之三

前原権現靈驗

理齋公羽未來記

子日菴終焉奇夏

德本和尚

加藤清正書翰

孤の書翰

同物

海中より出現の法華經

位牌并肖像

疫神

鳥比翼塚

讖死の者葦句

卷之四

蜀山人壁書

女達磨のとりはり

吉野の老僧

猫恩が知

羊小連物習

むく鳥と雀合戦

稀成大木

白雉

東錦繪盤觴



谷 奈 奇 栄

懸 想 文 賣

神 罪

和 歌 の 感 應

猜 心 込 ま 魂 入

卷 之 五

浪 士 知 耻 死

義 士 堀 部 安 兵 衛 書 置 并 鏡

搭 檣 の 一 話

藝 が 身 を 助 け

無 心 の 向 不 又 事

幽 霊 の 何 ら 咄

靈 石 の 祀 新 天 隄 と 号 け

并 龍 昇 天 の 事

夢 中 授 け 靈 石

夢 有 祥

衣 び 截 言 奢 と 戒 む

旅 僧 歌 と 砂 一 々 自 水 葬

太 神 宮 御 神 德

并 陰 叅 の 事

宮川舎漫筆卷之一

目次

- 一 義士大石瀨左門手紙
- 一 文和年の古書
- 一 非人の詩歌
- 一 孝子為頃女
- 一 花因の辞世
- 一 叢句の徳
- 一 赤染衛門の古墳
- 一 呪

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 大石瀨左門 and 文和年]*

- 一 角兵衛獅子
- 一 盤花の衰微の墓
- 一 古代の奢
- 一 一村小羽織一ツ
- 一 目賀田氏差物
- 一 五人男
- 一 半七三勝相對死

宮川金漫筆卷之一

義士大石瀨丸の子孫

▲家友大石氏あり者津涯岸に藩少将是沙耶家義士  
 四十七騎と内大石瀨丸の子孫あり大石源藏といふ者此  
 同人方小義士のりけし所持の番付付し者其子ありは  
 内務助の差物同主税の肌着又瀨丸患一夜討小持あり  
 馬柄抄しあ付と晩使哉り大石無人方の子孫あり

今日上野の石室へ赤い中へ俄に候て討つは時を乞ふ



大石主税良金肌着不性石と誌

袖ノ明キ一尺三寸

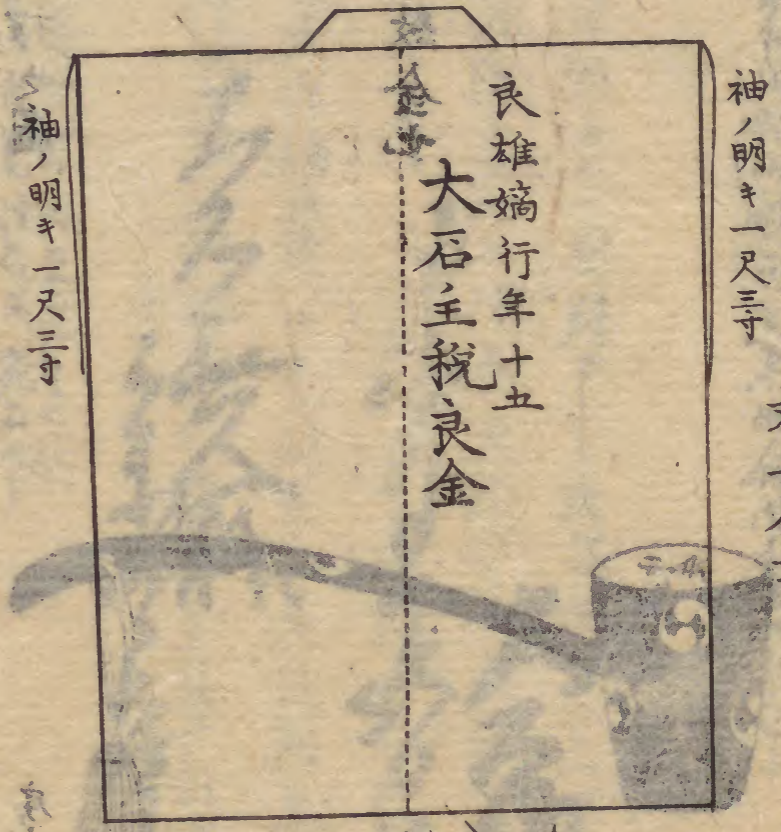
丈二尺三寸

地白きぬ

良雄嫡行年十五

大石主税良金

此良金



袖ノ明キ一尺三寸

大石主税良金丈五尺七寸

文和年の古書

▲左ふ山（山）古書ハ予持傳（持傳）書ハ予當安政四巳年小至リ  
凡五百五年の星霜ヲ経多ク思（思）ふ所斯（所）江都（江都）の磐宗（磐宗）子（子）  
登（登）りての旅（旅）山（山）ぬれ火災（火災）の憂（憂）も賑（賑）みつれ災（災）怒（怒）きハ程（程）  
多（多）く度（度）々（々）池魚（池魚）の災（災）い（い）は遠（遠）き事（事）ナレの（の）もめ（め）り  
その上（上）此時（此時）分の（分の）決（決）定（定）文（文）は実（実）名（名）書（書）一（一）其（其）紙（紙）の裏（裏）小書（小書）判（判）紙（紙）  
書（書）々（々）もハ予（予）持（持）傳（傳）事（事）ハ予（予）持（持）傳（傳）

海泉寺雜掌慶全申政所科前相摸國一宮庄  
寶藏所内中村（撰原五身左二所入道跡）事任御寄進状為奉

書等之旨、在彼所沙汰付下地於慶全執進請  
取狀候以此旨可有御披露候恐惶謹言

僧有胤

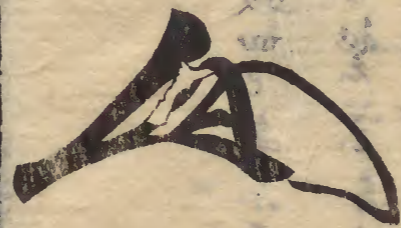
文和二年七月十七日

源光顯

進上 御奉行所

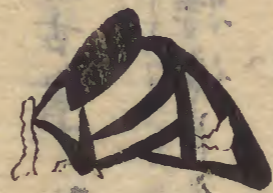
僧有胤

花押



源光顯

花押



凡人の詩歌

永正五年八月の事ありし時、谷山下少可非人死す  
其の詩歌は、  
一、  
夕、  
空、  
人、  
月、

一、  
夕、  
空、  
人、  
月、

夕、  
空、  
人、  
月、

空、  
人、  
月、

人、  
月、

月、

月、

孝子伝

▲嘉永七年七月の事... 孝子伝... 孝行... 孝子伝... 孝行... 孝子伝... 孝行...

孝子伝... 孝行... 孝子伝... 孝行... 孝子伝... 孝行...

其の儀... 孝子伝... 孝行... 孝子伝... 孝行... 孝子伝... 孝行...





多病の事渡世も事案多し方々支い見り終  
跡身賣身代金も少く取戻り振中出當り人  
身代金控ハ両少多振女も母位迄有女子も元孫波  
り勢い如去ん屯多中林多痛死し後家も一  
仕事し根津門前町庄ハ郎上店兵左如去ん郎  
十月地震も長屋津れ弱区子汰本町林跡地又ハ郎  
上店引揚如翌年八月大風も多長屋津跡も此  
小屋内、赤凌居婦多き人の子業多漸く  
如危女多難混を多し  
此方ハ解の面も買求の位厚く掛月  
之方折長衣取ホ赤條母是身にお送了  
振女

あ成りより道々金五拾貳兩又つぎ  
實解少く重立ハ振女もつぎ  
世話し振女の内ハ得達  
加え水のらう振女も  
少いお身振女の身も母  
是也むらむら  
〜夢事

閏五月廿六日

松岡氏

約子結木河内林路以

又二郎在林系

恒家

婦

日人婦

此

日人

定

十

日人妹

此

六之通於小

海番所

作渡山

松岡氏辭世

予初きくつ松岡氏の義子とありん孫有武年々禮樂射術書數はくつめ其餘の言恩義小孫一號しそ也

松岡氏名も播定孝といふ小字某といふ言彫刻を業とふし孫も性俳諧の道に嗜む雅名も琴鳥園花因と号し文政三辰年既よち監督にも讓り孫をくつと名づけれが年月未だ一日言ふ子孫は世々の風に傍らに孫いて吾等の都へ越きよ子も障ふるはけりて孫一此家と云ふはありぬ君今これ孫一示さしんくつと名の系又子育ははるまじあり孫一ぬちよ一も孫一孫一

高の母に於て子と思はれし  
をこそ養はしむる身が業し  
少くは後の記念に心をあてふりしは  
おもきしに棺をさすも  
文の二の露の降るまじの露す  
利一の子を向しむる天の賜は  
す

叢句の徳

▲丈夫おそれのほろも  
寒ぞしむかおそれ往し  
人のふばをきしげし  
嘉永五子の二月の子成り

予の莫逆の友嶋田子に因勤大岡某の婢女越後の生れ  
ありし其親ありのそ江戶に出く其時其の親大岡氏  
来り少し願の義者之れを我儀を儀を  
娘を以ては時時おぼし  
小言のまじりて愛し  
其のまじりて愛し  
詮方なくまじりて  
疑母し一むをまじりて

大岡氏  
そりた九おれそり

あつたあつた油子けりみく紙拾り  
ては若殿の生れをうりて風はりし言をうりて  
うぬと同人のお話ありき

赤染御門の古墳

爰は奥田来りて之れ若天明年中甲列に勤成りし折  
甲列並崎にありて名もなき古木堂殿の所は言む  
一多に古墳ありし頃中門建立し右の古墳と名付是  
と云ふは在任僧の夢み主人より此墳と云ふは子と歌  
一多の短冊に言ふ爰より目覚て見れば古木堂殿  
柁のりし砂れりしは言ふを

ふれぬのまゝしりあれをそほり

古木古墳も其後し中門と塚の根の方をそ建し  
右の短冊桑田方持ありし一多桑田より古木堂殿は出せり如  
赤染御門の墓のよしありし紀事也此一條は桑田の一多の  
ゆゑにむのみしそ崎氏の物語あり

呪の事

予友原氏より地の出は呪友の歌を注置時出る子新と云り

白佛言

此は麻子ほりしと云りば  
山王作りしと云ふと云り

政運云呪之後むしりしは我必の古風しを幸か海に  
 ぬ呪しはたしき一話り予生父程高か能或知しり  
 峰みきまの呪は文し多事予は得えり家りしり  
 おぢり事あはぬあはぬも父の令命りしり  
 受し香折しは情も来しは是ど能よ試あんと  
 右の呪文をん念しりまよえり不学しり  
 誓進そ痛恨しり下毒のまじりみりしり  
 抱えて笑ひし今ぬ右の呪語を應無所住而生其心と  
 經文あり

角兵衛 妙子 之 話

一 愛閑樓雜記に或人の曰く越後の国より出た獅子舞りし世に  
 越後妙子といひ又角兵衛妙子ともいへり角兵衛の各氏板敷  
 知しりし武藏一の宮の氷川の社に古き獅子舞りし  
 色りの村より妙子と名付しは彼獅子舞りし借と書しり  
 蓋田樂の遺風も其妙子に角兵衛の致りし御免天下一  
 角兵衛作之し形もあしりしきん角兵衛古代の獅子舞の  
 名工と見えたり

政運云下つては事ハ  
 理高き御免なりし所ハ石原ありしが地居の中此地を  
 渡りし一つの壺を得たりし其銘云天一ノ塚と云ふ  
 一ノ塚云云ハ一の壺と云ふは免の塚と云ふは



香取郡其下山下の惣領なりて其質上守是の目的を以て其  
 飲食一守を以て守りて其の領に在りて其の領に在りて其  
 園の依りて守りて其の領に在りて其の領に在りて其  
 少れ守りて其の領に在りて其の領に在りて其の領に在りて其

一村羽織一ツ

同人云右の時分は私家此村に在りて其の領に在りて其  
 表を以て其の領に在りて其の領に在りて其の領に在りて其  
 は村羽織持て其の領に在りて其の領に在りて其の領に在りて其  
 守りて其の領に在りて其の領に在りて其の領に在りて其  
 守りて其の領に在りて其の領に在りて其の領に在りて其

物なりて其の領に在りて其の領に在りて其の領に在りて其  
 守りて其の領に在りて其の領に在りて其の領に在りて其  
 守りて其の領に在りて其の領に在りて其の領に在りて其  
 守りて其の領に在りて其の領に在りて其の領に在りて其

目賀田氏一物

守りて其の領に在りて其の領に在りて其の領に在りて其  
 守りて其の領に在りて其の領に在りて其の領に在りて其  
 守りて其の領に在りて其の領に在りて其の領に在りて其  
 守りて其の領に在りて其の領に在りて其の領に在りて其  
 守りて其の領に在りて其の領に在りて其の領に在りて其

予親（おや）一（ひと）ふち一（ひと）目黒田（めくろのうら）言（い）六百石（むももいしやく）を領（りやう）し先（まへ）祖（そ）関（せき）ヶ  
 原（はら）陣（ぢん）中（なかつ）に珍（めづ）し差物（さぶつ）今（いま）も持傳（もちでん）うふ見（み）しふ品（しん）も  
 五（ご）指（さし）一幅（いふく）堅（かた）二尺（にせき）七八寸（しちぱん）位（ゐ）中（なかつ）一（ひと）白木綿（しろきわた）もこれ（これ）名（な）は  
 目黒田（めくろのうら）何某（なにがし）と自分（じぶん）切（き）抜（ぬ）し給（たま）付（け）乳（ち）金紙（きんし）も透（と）留（りゆう）  
 ありてり付（け）て用（もち）ひが是（こゝ）中（なかつ）もあしけ位（ゐ）のもれあふ  
 と時（とき）僅（わずか）百俵（ひゃくばう）位（ゐ）の多（おほ）くはなれあふ名（な）はせんがうれあふ  
 せう一（ひと）思（おも）ははし一（ひと）徳（とく）う海（うみ）一（ひと）思（おも）うの

五人男（ごにんおとこ）

歌舞妓（かぶきぎ）狂言（きやうげん）不（ふ）作（さく）了（りやう）興（きやう）りもあつた五人男（ごにんおとこ）といふ者（もの）もこれ  
 放蕩（はうたう）不（ふ）頼（ら）の悪徒（あくと）も江戸（えど）も古（ふる）く男（おとこ）伊達（いだて）の類（るい）皆（みな）づれ

酒徒（しゆと）情（じやう）徒（と）の軍（ぐん）あり五人男（ごにんおとこ）刑（けい）ふ處（ところ）あつた元禄（げんろく）十四（じゆ）巳（し）年（ねん）  
 六月（むつき）七日（なな）ふ入（い）牢（らう）一（ひと）翌年（よくねん）十五（じふご）午（う）年（ねん）八月（はつがし）廿（にじふ）六（ろく）日（にち）大坂（おおさか）道頭（みちづか）堀（ほり）千（せん）日（にち）  
 小（こ）木（き）中（なかつ）獄門（ごくもん）ふは行（ゆ）此（こゝ）外（ほか）も悪（あく）少年（せうねん）もこれしつ仕置（しし）  
 あつた老（らう）のぶ（ぶ）くを五人男（ごにんおとこ）刑（けい）死（し）の翌年（よくねん）又（また）翌年（よくねん）皆（みな）罪科（ざいけ）ふ達（たつ）  
 たり其頃（そのころ）の書留（しよりゆう）ありし事（こと）

- |  |                          |                             |
|--|--------------------------|-----------------------------|
| 生国 <small>（なまくに）</small> 撰津 <small>（せんづ）</small> 多田 <small>（た）</small> | 庵 <small>（いん）</small>    | 平兵衛 <small>（へいべゑ）</small>   |
| 生国 <small>（なまくに）</small> 大坂 <small>（おおさか）</small>                      | 神鳴 <small>（かみなり）</small> | 庄九郎 <small>（しやうくわう）</small> |
| 金 <small>（かね）</small>  | 文 <small>（ぶん）</small>    | 七 <small>（しち）</small>       |
| 以 <small>（も）</small>   | 右 <small>（みぎ）</small>    | 三 <small>（さん）</small>       |



大坂天満

ほくら

市右衛門

二十九

右五人の若ども一室小樹門におおしはらりし  
も妙見おのり

外に宰死四人

生国大坂

かひま

吉右衛門

二十五

進国播別屋  
喧嘩屋

五郎右衛門

二十七

大坂無病

わくら

六兵衛

二十四

生国大坂

とんざ

勤六郎

三十一

右一件の若ども子速は召捕り給ひし内迄去りし者又  
い百石捕ひの際取付おせ年のは仕置おせし

大坂町道具屋

親仁

与兵衛

二十七

此者を早速召捕り永入牢に  
作付は如元禄十六未

年七月拾別河多両國は捕返放

何付

大坂町奉行

夫世ふり小名多る五人男ハ弱き者扶け強きとらぐ仁義の  
杜士あり孫よ一刀お帯し子よ尺八の笛はらりし力人

徳是命を義に依りて死す其の英雄あり世より先を  
 賞する事一縁のむし今に至りて百有余年あり  
 川東二河合今も實に著るる魂語に似たり此の  
 至くはつ海に彼等が生いりて善行して死後の英  
 名は世に傳はりて今もあはれし書に記す世にあら  
 人母ありしむの死は若年の歎きし事奇生の死は若  
 依りてつて他見をゆきし事思ふべき事  
 雁が聲はけむらにやぞあはれあり  
 右一件の字は小石川牛天神下あり其の隱者弥生堂朝居  
 宗相より借す所の也

因母云海のよき事

本名ハ梅波  
吉兵衛トイハリ

又ハ阿波の十郎兵衛也

劇場少少ハ忠義み道々 越よ仕組もいんも何是、  
 大城ありしんるるは篇ハ抄出ん

半七三勝お對死

▲大和国宗知郡五條赤根屋半七大坂おれのお心申の長揆使は  
 正徳三己年春に役所の控帳有之に寫取置其長赤根屋  
 坂には此れ成に指列西成郡下難波村に代官所也右に長揆使役人  
 は同人揆使の代

関戸 條左衛門  
 渡邊 為右衛門

覽

一 楨別西成郡下難波村領墓所南側石垣之根畑を年以

之拾四五の男年二十四五斗りの女咽を切て人にお果居申

一 男の底咽式寸斗臍脇の上を寸斗突疵お見申

一 女咽四寸斗突疵お見申

男之衣類

一 郡内縮両面綿入

一 袴むき茶帯

一 月二重下帯

一 皮足代表

一 珠數

一 照差

一 小刀

女之衣類

一 日野寺小紋綿入

一 郡内縮綿入

一 京河く帯

一 緋ひ巾ぬい  
一 巾ぬい足袋あし  
一 編緬びん袖そで

但紅に

古之通男女着し居ま

一封ぎ状じょう

之箱はこ抄しり白しろ  
みろ平ひら金かね銀ぎん

一 通と  
一 通と  
一 通と

ま七

一 木綿茶色布子きん

但た少すれれ人ひとの者もの下したみみ敷敷居ゐるる

古之通吟味仕いん仕し処ところお遣つかへへ居ゐるる以上

元禄八年 亥十二月七日

下野彼村在しも

甚しん大だい清せい門もん

同村年寄

源げん大だい忠ちゆう門もん

日

七しち兵へい衛ゑい

日

九く郎らう兵へい衛ゑい

辻つじ五ご丸まる太た門もん内うち

兵へい衛ゑい條じょう丸まる太た門もん内うち

渡わた多た為た右みぎ太た門もん内うち

書屋の文

昔より法衣法師は少くもなれども中なるものも  
つらうとて今更なれどもなれども其の果たの  
ちうあまし思ひの西あけらの頼る人ば友之猪  
つらう一期お果はる世の思ひ人あはれ  
たのふおれはよ一命をけりおれはる人あはれ  
おれはるも思ひの切あはれ事推し中なる人あはれ  
身のとて大事なる始おれはる思ひの思ひ人あはれ  
まへまはれ中もつよはる人あはれ思ひの思ひ人あはれ  
おれはる思ひの思ひ人あはれ思ひの思ひ人あはれ

美しき夢がくはあはれ人あはれ思ひの思ひ人あはれ  
たのふおれはよ一命をけりおれはる人あはれ  
おれはるも思ひの切あはれ事推し中なる人あはれ  
身のとて大事なる始おれはる思ひの思ひ人あはれ  
まへまはれ中もつよはる人あはれ思ひの思ひ人あはれ  
おれはる思ひの思ひ人あはれ思ひの思ひ人あはれ

十二月

之掛り

内代者  
平九郎

七

美しき屋の墓

みの屋之務の墓と大坂難波新地法善寺より寺  
子日寺より

法号

蓮ま

嵐雪月照信士  
月雪妙霜信女

託生たくせい

元禄八し亥年十二月七日

和列五条新町

赤根屋半七

みの屋之猪

寛政十三辛酉三月  
みの屋之猪  
萬屋半七  
為百回忌追善也

*[Faint vertical text, likely bleed-through or additional notes]*



百回忌の塔婆より道取塔の芝居より是は供養を以て追善と云ふ  
かゝるの流芝居より常子様よりあいの必芝居より追善と云ふ  
すけをちを我化者山東京傳著述の書より追善と云ふ  
書号ハ  
ワスレナリ

後代官所ごごうかんのふしれあはれ古き日記にっぴより寫しとせ或人より越こす  
 其海うみ出いしぬえ禄八年ろくはちねん今いま去さる凡およ百六十三年ひゃくろくじゅうさんねんふあむの  
 質素しつそありお對たい尼にのくわ暖ぬるか小袖こそで茶ちはむぎのあ書かき  
 おしあはれはは後ごより愛あいよ記き考こう

